

平成 22 年度 JIA 城北地域会 活動報告

2010.4.10 平成 20 年度 JIA 城北地域会 総会

会 場： 自由学園明日館 会議室タリアセン

内 容： 2009 年度の活動報告と 2010 年度の活動 など

出 席： 秋山、伊藤、大川、亀井、久間、柴田、鈴木、武田、早川、廣瀬、深川、藤本、松本、南、麦田（敬称略・以下同じ・名前は委任状）

2010.4.10 城北地域会 特別講座の開催

会 場： 自由学園明日館 会議室タリアセン

講 師： 松本 哲夫（城北地域会 代表）

概 要： 新幹線 700 系のデザイン

環境指向の造形をめざして

デザイン開発を通しての社会的背景を含む解説と
将来への可能性についての講演



（秋元 淳／Design News 編集部 DESIGN NEWS 246 誌 より抜粋）

東海道・山陽新幹線を 700 系の新車両が走り始めた。そのデザインコンセプトは、沿線地域と客室のアメニティなど、車両を取りまく内外の「環境改善」である。

一日の運転本数 285 本、乗客数にして約 37 万人。一便あたり約 1,300 人を運び、年間走行距離は 4,600 万 km 以上（東海道新幹線参考値）—これらが示すように、新幹線が日本の社会的にひとつの巨大システムと化した今、700 系は何よりも「空力性能の向上」に挑まなければならなかった。

しかし、純粋に空気抵抗の低減を突きつめるだけでなく、デザインに求められたのは、沿線にもたらされる騒音と振動をどう緩和させるかが大きなテーマだった。

たとえば、トンネル通過時にトンネル内部の空気が圧縮されて生じる「微気圧波」というマッハ衝撃波や車体各所からの風切音などをどう抑えるかという問題である。TDO（トランスポート・デザイン・オーガニゼーション）が手掛けた 700 系のデザインは、「空気をいかに後方へスムーズに流しながら走るか」の追求によって生まれた形態であり、複雑だが表情豊かなラインをつくり出している。（開催案内より）

2010.5.27 JIA 城北地域会例会

会 場： 建築家クラブ

参加者： 大川、久間、鈴木、林、深川、松本、南

内 容： 地域会 HP、仰高小学校空間 WS、まち歩き企画 等今年度の活動や諸問題について

ホームページ公開への準備検討

ワーキンググループ： 秋山、大川、久間、鈴木、武田、深川、麦田

外部協力事務所： 株式会社 スタジオネオ 代表取締役 伊波 サチヨ

2010.7.17 まち歩き「城北三都物語（前編）」の開催

場 所： 城南住宅地区（練馬区）、常盤台地区（板橋区）、常盤台集会所 2 階和室

講 師： 上野 泰氏（ランドスケープデザイナー・城南住宅組合）

清水 正俊氏（建築家・ときわ台しゃれ街協議会）

参加者： JIA 関係 11 名、城南住宅地区・常盤台地区関係者（区民） 15 名

概 要： 城北地域とその周辺にある現在の高級住宅地と称される街区は、1920 年代頃、住宅地の開発・分譲がなされ、ほぼ時期を同じくして街の歴史がスタートしている。

大泉学園	1924 年 着工
城南住宅	1921 年 組合結成
常盤台	1936 年 分譲開始
目白文化村	1922 年 第一期分譲開始
大和郷	1920 年 建設

これらの住宅地は都市計画法による風致地区の指定や地域での協定の制定、街づくりルールの運用など様々な制度と居住者のまちづくりへの情熱と努力のもと、現在まで良好な住環境を維持している。



今回は、「城南住宅」と「常盤台」を訪ね、両地域で中心となって活動される方々に現地での同行解説をお願いし、まちづくりへの取り組みを伺った。

さらに、今後、各地域で検討されるであろうローカルルールのあり方やタウンアーキテクトとしての地域へのかかわり方について考えた。

（第一部）まち歩き 秀逸なる住環境の見学

城南住宅地区（練馬区向山 3 丁目）の見学

同行解説；上野 泰氏（ランドスケープデザイナー・城南住宅組合）

常盤台地区（板橋区常盤台 1、2 丁目）の見学

同行解説；清水 正俊氏（建築家・ときわ台しゃれ街協議会）

（第二部）意見交換会 まちづくりへの取り組みとローカルルールのあり方について

会 場；常盤台集会所・2 階和室（板橋区常盤台 1-21-20）

上野 泰氏（前掲）、清水 正俊氏（前掲）を交えた意見交換会

2010.10.16 仰高小学校空間ワークショップの開催

会 場： 豊島区立仰高小学校 校庭

参加者： ファシリテーター 14名

秋山、大川、鈴木、信原、深川、麦田（城北）、
寺本、小池（中野）、藤沼（中央）、
大橋（千代田）、庫川、大野（城東）、
山本（三多摩）、秋元（中央工学校）
小学1～6年生 7グループ 60人

概 要： 一昨年の同校での開催の後、再度の
開催依頼により準備・開催を行なった。



昨年はインフルエンザの蔓延により開催することができなかつたため、実質連続の開催であり、
来年度以降も継続して開催して欲しい旨、要請がある。

前回は高学年と低学年を分けてのグループ(班)としたが、今回は各班各学齢の混成にて行なった。
結果、学齢の異なる子供同士での協調・協力関係が随所に見られ、空間ワークショップの開催目的
の一つである、制作におけるプロセスの充実においても、貴重な経験を子供達に授与することが
できたことが、成果の一つである。 参加した子供達へ「修了証」を渡した。

2010.10.27 城北地域会ホームページの公開

URL： <http://www.jia-kanto.org/johoku/> (アーキテツガーデンの開催日に合わせての公開)

地域会活動を広く社会にアピールしていくために
ホームページの公開は積年の課題であった。
支部のシステムの更新に伴い、地域会会員間への
情報提供も行なえるシステムが利用できることにな
ったため、ワーキンググループ (WG) を立ち上
げ、公開に至る。

支部のサーバーを利用することで、支部の情報も
リンクして掲載することが可能となった。

このことは会員の利便性だけでなく、地域会の活動が本部・支部の活動と連携したものであり、
常に更新していく活動状況から、サイトを訪れたものにとって、JIA の活動をより理解してもら
うことも意図している。



2010.10.27 アーキテックガーデン 2010 建築祭への参加

本年度のアーキテックガーデン 2010 建築祭は 10 月 27 日～30 日を昨年と同じ建築家会館と建築家クラブで開催し、さらに翌週 11 月 1 日～5 日はサテライト会場として INAX 銀座で開催。城北地域会からは建築家会館でのパネル展に「目白地区」と「石神井公園地区」でのまちづくり活動を紹介。

また、建築家クラブで開催されたセミナー「21 世紀日本の生活環境づくりと建築家の役割（主催；都市デザイン部会）」のうちの第 1 部；地域会からの報告に「緑の保全と活用からの景観形成」をテーマに発表。

このセミナーでは城北地域会の他 7 地域会が報告をされ、それを踏まえて、第 2 部として青木仁氏の講演と会場の方々との意見交換を行なった。

青木氏からは、東京のまちづくりに何が重要かという事に対し、いろいろな事例を示され、良い都市の姿につながる途を示された。

そして、地域での問題点を知り、その問題点を個々に解決していこうとする行為の積み重ねによって都市が良くなっていくと言及され、地域会の活動にエールを贈って頂いた。

2010.11.18 ショートレクチャー：「石神井地区のまちづくり」への取組み の開催

会 場： 建築家クラブ

講 師： 林 秀司（城北地域会）

参加者： 12 名

概 要： 2000 年に NPO 法人練馬まちづくりの会への参加を契機に石神井地区のまちづくりに参画されてきた林 氏の活動の紹介と、問題点の提起、将来への展望等、地域に住み地域で活動する建築家だからこそ語れる、まちづくり活動最前線のショートレクチャー。

行政との連携だけでなく、地域住民の側に立った行政との折衝等、決して大きな街ではない「石神井地区」にもかかわらず様々な問題を内包し、奮闘努力をされてきた様子から、成功事例だけでなく失敗事例（成功することができなかった事例）を示し解説をされた。

本会合に参加した者からは、地域会や JIA としての積極的なサポートの必要性を感じた旨の意見が寄せられ、様々な地域でまちづくり活動に励む地域会会員にも勇気を与えてくれる講演であった。

2010.12.01 武蔵野市立千川小学校空間ワークショップへの参加

場 所： 武蔵野市立千川小学校 校庭

参加者： ファシリテーター 8名（他に見学者） 小学6年生 8グループ 58人

2011.01.14 武蔵野市立桜野小学校空間ワークショップへの参加

場 所： 武蔵野市立桜野小学校 校庭

参加者： ファシリテーター 12名（他に見学者） 小学6年生 12グループ 87人

2011.03.01 武蔵野市立千川小学校空間ワークショップへの参加

場 所： 武蔵野市立千川小学校 体育館

参加者： ファシリテーター 10名（他に見学者） 小学5年生 10グループ 68人

概 要： 昨年末からの3つの武蔵野市での空間ワークショップは、三多摩地域会の方々が学校と協力して準備を行なった。

我々は、空間ワークショップに建築家が関わる事を少し意識した。

子供達の制作の見守りだけではなく、空間のもつ力強さや暖かさ、新しいカタチをつくる事へのチャレンジ心 など、少しは子供達のココロに伝えてあげる事ができたのではないかと思う。



2011.01.20 ショートレクチャー「境界に立つ」 の開催

場 所： 建築家クラブ

講 師： 泉 幸甫（城北地域会）

参加者： 10名

概 要： 泉さんのこれまでの活動の中から、（泉さんのおコトバを借りれば）「古典的な建築家としての仕事である設計監理という仕事のあり方以外のこと」の紹介。

1. 「どのような建築を作るか」ではなく、「どのように建築を作るか」から「どのような建築を作るか」を発想する。 職人とともに作る。集合住宅における供給方式を考える。
2. 木製防火戸の開発
3. 地域工務店の設計力を上げるための活動
4. 大学で教える以外に、30歳前後の建築設計の実務にかかわり始めた人を対象とした教育活動
5. 家づくりの会のこと

などなど、建築をできるだけ広い視野でとらえたいと思いやってきた（泉さん談）話。